



今後の10年を見据えて

長島町長 川添 健

町民の皆さまには、心新たに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年、令和という新時代を迎えました。平成を振り返りますと、インターネットの普及を背景に社会が大きく変化し、平和でありながらも、幾つもの大きな自然災害に見舞われました。本年は令和の幕開けにふさわしく、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。今後も我が国がテクノロジートイノベーションにより着実に進展を続け、明るい未来であることを期待しております。

現在、長島町では今後の10年を見据えて、鷹巣診療所の新築や総合運動公園の整備、ブロードバンド（光通信）の構築といった大型事業を着々と進めており、その実現に向けて、本年においても継続して推進してまいります。

少子高齢化の波は避けられませんが、その中であって本町は交流人口、関係人口の増加を促進するため、町民とともにさまざまな事業にも取り組んでいます。その柱の一つが、「ぐるっと一周フラワーロード事業」で、毎年春には「夢追い長島花フェスタ」を開催しています。2年に1回秋に開催する「ながしま造形美術展」にも昨年は多くの人を訪れにぎわいました。さらに、長島を舞台に子育てをテーマにした映画「夕陽のあと」が昨年11月から全国で上映され、好評を得ています。撮影には多くの町民がエキストラとして参加され、本町の魅力を全国にPRできることは交流人口増加に大いに役立っているものと感じております。

一次産業においては、農業ではバレイショの安定を図るために、従来は種苗を北海道から仕入れて栽培していますが、長岡技術科学大学と提携して無菌苗の研究を進め、現在生産農家による試験栽培が行われており、自給体制が整いつつあります。このほか、牛、豚、鶏などの畜産、漁業ではブリ養殖やアオサなどが順調に推移しています。町営の太陽光発電事業に取り組み、その益金で小中学校の給食無料化などに充てて子育て支援を手厚くしています。さらに沿道への花の植栽、空き家改修などにも充当しています。空き家改修では住みやすい環境の整備はもちろん、民間企業とタイアップして室内の状況を映像にして全国のどこからでも見られるシステムを導入しました。そのかいあって、この1年半ほどで、約30人がI・Uターンで定住され、本町は活気づいています。

このほか、地方創生の一環として、高校や大学進学に際して学費などを援助する「ぶり奨学金制度」を導入しています。本町には高校・大学がなく、町外、県外となれば本人や保護者の負担が大きく、その一助になればと思っています。令和2年度は合併から15年目を迎えます。冒頭に申し上げました大型事業の推進はもちろん、交流人口をさらに増加させるには、農業、漁業などの一次産業と観光の融合を今以上に進めていく必要があります。日帰り観光から滞在型観光へとシフトさせ、多くの人を呼び込んで町の発展につなげてまいります。

さらに、「ぐるっと一周フラワーロード事業」を進展させ、新たに宝の木整備事業を展開してまいります。宝の木を「ほうのき」と呼ぶことができますが、モクレン科に「ハウノキ」という木があり、これを長島の外周約40kmにわたって街路樹として植栽し、魅力ある長島町をこれからも演出していきたいと考えています。私は常に申し上げていますように、多岐にわたる施策も活きも、健全な財政との調和が必要不可欠であります。要所要所には十分に気配りしながら、活力ある、魅力ある長島町づくりに努めてまいります。今後、「子どもに夢を」、「働く人に活力を」、「お年寄りや弱者には一人ひとりを大切にする福祉」のまちづくりを推進してまいります。結びに、本年が町民の皆さまにとって実り多き素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます、新年の挨拶いたします。